



波紋



ホームページは
ここから

認定特定非営利活動法人
教育活動総合サポートセンター
広報紙「波紋」 第22号
発行人 田中 真喜男
題字デザイン・山口正勝

発行所 教育活動総合サポートセンター
〒213-0033 川崎市高津区下作延5-11-8
TEL: 044-877-0553 FAX: 044-877-0980
E-mail: support0731@luck.ocn.ne.jp
ホームページ: <http://www.kks-support.or.jp/>
印刷 西桜印刷株式会社 TEL: 03-3568-2543

子どもの声によりそい、共に歩む

- NPO 法人として安定した組織づくりを
 - 「蛇の足より人の足見よ」 足元に目を向けて
 - 「子どもの声を基盤にした支援」の研究・実践を
- 本年度もどうぞよろしく願っています。

認定特定非営利活動法人 教育活動総合サポートセンター
理事長 田中真喜男

サポートセンター設立から22年
目の春を迎えました。

昨年度は、7月に市制百周年を
記念した「市政功労賞」、また10
月には、東京応化科学技術振興財
団による「科学教育の普及・啓発
助成団体表彰」の「優秀活動賞」
という二つの大きな賞をいただき
ました。先輩諸氏から受け継いだ
着実な取組が評価されたものと感
じています。これも、ひとえに、
ご支援をいただいている関係機関
並びに、設立趣旨の「子たちに力
を」に賛同いただいております企
業、賛助会員皆様からのご協力の
賜物と改めて感謝申し上げます。
所員一同、受賞の喜びと共に、更
なる精進を決意して活動に取り組
む所存です。

今、子どもたちを取り巻く社会
状況を踏まえ、「不登校」に対す
る理解や対応についての考え方が
大きく変化しようとしています。
学校においても、子どもたちが主
体的に学びたいことを学んでいく
「学びの多様化」の考え方に基づ
いた取り組みが進んでいます。そ
の
新年度のスタートに当たり、そ

それぞれの事業の目的を再確認し、
サポートセンターでも、子どもの
声を基盤に置き、子どもによりそ
った支援に努めていきたいと思い
ます。本年度も、所員一丸となっ
て、子ども・保護者・関係機関と
の連携を図りながら、様々な事業
に取り組んでまいりますのでどう
ぞよろしく願っています。



事業計画

本年度も「子たちに力を！」の
理念に基づき、定款に定められ
た各事業をより効果的に進めてい
きます。また、社会情勢の変化に
よる諸課題にも着実に取り組んで
まいります。

①教育・福祉に係る相談等支援に 関する事業

- ア 教育・福祉相談事業 (自主事業)
- イ サポートセンター保護者の会
事業 (自主事業)
- ウ 神奈川県フリースペース等相
談事業 (補助事業)
- ②適応指導に関する事業
ア 子ども包括支援事業
(子どもサポート南野川)

イ 子ども・若者等支援事業 (子どもサポート旭町)

③学習支援に関する事業

- ア 学習支援事業 (子どもサポート宮ノ下)
- イ 学習支援・居場所づくり事業
川崎区(学習支援 川崎教室)
学習支援・居場所づくり事業
幸区(学習支援 幸教室)
- エ 学習支援・居場所づくり事業
幸区(学習支援 日吉教室)
- オ 地域の寺子屋事業 (寺子屋さぎぬま)
- カ 外国につながる子ども向け
寺子屋事業 (日本語支援 東小倉教室)
- キ 外国につながる子ども向け
寺子屋事業 (日本語支援 幸町教室)
- ク 夏休み特別講座 (たのしいキッズセミナー)
- ケ 科学教育の普及・啓発助成事業
(サイエンスキッズ出前科学教室)
- ④特別支援教育に関する事業
ア 中原区子どもの発達支援事業
(中原区保護者ミーティング)
- ⑤体験活動等に関する事業
ア ふれあい体験活動(自主事業)
- イ あさお体験広場に係る運営管
理業務(のびのびファーム)
- ⑥研究研修等に関する事業
ア 自主研究(研究報告会・不登
校シンポジウム)(自主事業)
- イ 子どもの権利学習推進事業
- ⑦青少年の健全育成を図るための

- 環境整備に関する事業
- ア 臨時的任用教員等研修事業
- イ 教育活動サポーター配置事業
- ウ 特別支援教育サポート事業
- エ 営繕業務

⑧講演会等の企画運営に関する事業

- ア 広報・文化活動事業
(文化講演会・教育課題研修
会・ホームページ管理運営)

⑨文化・スポーツ活動の推進に 関する事業

- ア 大山街道ふるさと館管理運営
事業 (共同運営)
- イ 友だちに薦めたいこの1冊コ
ンクール審査 (協力事業)
- ウ 全市子ども会作品展審査
(協力事業)
(海老沢)



大山街道ふるさと館

令和7年度は、企画展を年6回、記念講演会や市民ミュージアムと連携したイベントやワークショップを年6回、ミニ企画展も2ヶ月ごとに実施します。また高津・大山街道探求講座を年3回、大山街道学習講座を秋季3、高津のまち歩き講座を年2回、昨年からは始め大山街道歴史散歩を年8回行います。今年度、生涯学習財団と共催でシニア活動講演会も計画しています。秋と春のふるさと館まつり、ぶらり散歩やまちのマイスター講座で地域交流を深めます。子ども探検クラブや出前授業、ふるさと発見講座、自由研究相談等、地域学習の支援もします。(石川)

臨時的任用教員等研修事業

今年度川崎市で初めて採用された臨時者と中・高校での教科一人配置校の初任者(正規職員)を対象に巡回研修を行っています。また学校長の要望により、経験のある臨時者や非常勤講師に対しても本研修が適用されています。研修サポーターが学校に伺い、授業を見た後、様々な視点から臨任者等に対して助言を行っています。この研修は年4回、中学校の技能教科、高校の専門教科には年5回行っています。研修の機会が少なく臨時者等にとって非常に有効な研修となっています。(前川)

学校サポーター配置

川崎市立小学校・中学校・高等学校の指導補助者(サポーター)にかかわる配置事務や研修を行う、川崎市教育委員会からの委託事業です。大学生、教員経験者、地域協力者からなる650名を超える方々が、さまざまな教育活動や特別支援教育のサポーターとして、市内の各小・中・高等学校に配置され、それぞれの学校の状況に応じた支援活動に努めています。各学校からは、サポーターへの感謝とともに、この活動に対して大きな期待をいただいています。(射越)

のびのびファーム

ゆうゆう広場あさお敷地内にある体験農園「のびのびファーム」活用の総合教育センターからの委託事業です。農業ボランティアの方々の指導の下、近隣の小学校2校と中学校支援級の子どもたちが、ジャガイモ・サツマイモ・大根などの種まき・植え付けから収穫まで食育教育の一環として年間を通して学んでいます。天候により野菜の生育は左右され、昨年度はジャガイモ、サツマイモ収穫時、熱中症の危険があり、収穫体験日の調整が大変でした。大根の収穫体験では小さな種から大きく育った大根に目を輝かせ大喜びでした。(前田高)



令和6年度自主研究

今年度は、これまでの研究に加え、子どもや保護者がより「声」を発しやすい方法を考えると同時に、テキストマイニングなどの新しい分析方法を用いて、「不登校」の現状を理解しようとする。また、子どもの支援にかかわる「スタッフ」がどのような思いで相談や学習に取り組んでいるのか、所員全体で研修会をもち、アンケート調査も実施しました。

川崎市教育委員会では「不登校対策の充実に向けた指針」を令和6年7月に公表し、「全ての子どもたちの思いを尊重し、一人ひとりに寄り添った取り組み」を推進

子どもの声から不登校を考える

子どもの成長を応援する関わりをするために

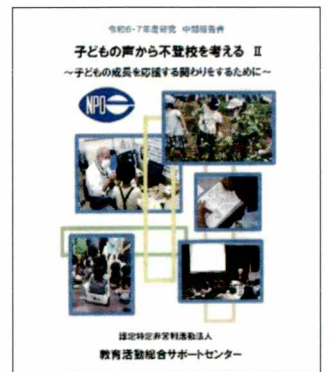
今年度は、これまでの研究に加え、子どもや保護者がより「声」を発しやすい方法を考えると同時に、テキストマイニングなどの新しい分析方法を用いて、「不登校」の現状を理解しようとする。また、子どもの支援にかかわる「スタッフ」がどのような思いで相談や学習に取り組んでいるのか、所員全体で研修会をもち、アンケート調査も実施しました。

私たちが研究は、聞こえにくい「子どもの声」をどのように捉え、子どもに寄り添い、その成長をどのように応援していくかという事に重点を置いています。この研究は、おとなが子どもに指示することから、子どもに寄り添うという意識の変換を図ることになると考えています。(山田)

研究報告会から

2月22日(土)午後2時から川崎市教育会館で「不登校シンポジウム」子どもの声から不登校を考

えよう2024」が開催され、147名の参加がありました。初めに基調報告として、教育委員会学校教育部支援教育課橋美由紀担当課長より、昨年7月にまとめられた「不登校対策の充実に向けた指針」について説明がありました。教育委員会の不登校に対する方針の改善や子どもについて寄り添う大人のスタンスについてお話しいただきました。次に、保護者支援団体金子あかねさん、小学校支援教育コーディネーター江端瑞代さん、S W河野利智さん、サポーターセンター研究部員岸秀子さんの4名のシンポジストからそれぞれの立場からの報告と提案があり、その後、会場の参加者の方々と意見交換が行われました。さらに今回は、子ども参加の試みとして、こどもサポーターに通っていた経験をもつ大学生



★不登校や学習不振などに悩む子どもも本人やその保護者が抱えている困り感、不安などについて、経験豊かな相談担当者が一緒に考え、解決に向けて支援をしています。対象者は、小・中学生を中心に、その保護者、学校関係者などです。学習支援については、担当者との連絡を取りながら、個別に学習支援を行っています。相談や学習支援を希望される方は、お気軽にお電話やメールをください。電話受付 月・金曜日 9時〜17時

教育相談案内
044-877-0553

★保護者同士で情報交換をしたり、体験者から話を聞いたりする「サポーター会」や児童生徒を中心として物作りをする「体験活動」を計画しています。詳細は当サポーターセンターのホームページをご覧ください。(井上)

ネーター江端瑞代さん、S W河野利智さん、サポーターセンター研究部員岸秀子さんの4名のシンポジストからそれぞれの立場からの報告と提案があり、その後、会場の参加者の方々と意見交換が行われました。さらに今回は、子ども参加の試みとして、こどもサポーターに通っていた経験をもつ大学生

(保崎)

学ぶ楽しさ わかる喜び 元気いっぱいの子どもたち

将棋名人

ぼくは、サポートセンターで将棋をしています。

将棋をしていて一番楽しい事は、山田先生を追いつめる事です。最初は、飛車角抜きでしてました。今では、飛車角も入れて互角の戦いです。

ぼくの得意な戦法は、中飛車とおにぎりしと無敵囲いとみの囲いです。

これからのいろいろな戦法を覚えて山田先生をギャフンと言わせたいです。5年生で勝ちたいです。これからも将棋の研究をするぞ!! (小4 O・R)

ふり返ると

最近、電流が流れる様子がわかる実験をした。

球体で電流が紫色に光り、あらゆる方向に飛んでいく。けい光灯に近づけると光る。指を近づけると、指に電流が集まってくる。こんな実験ができるなんておどろいた。

算数では、円の面積の公式が覚えやすかった。分数や小数の計算は、式を見ると苦手意識が強いとわかった。

5年生で初めて来た時から、ふり返るとあつという間だった。

(小6 O・I)

話せるって素晴らしい

私は5年生の9月に日本に来ました。初めは日本語が全然わから

た。小一の冬からずっと不登校だった息子がようやく意欲的になり、昨年の3月からサポートセンターに通うことを決意し早くも1年が経とうとしています。

すぐに学習することを楽しみを見出し5月

子どもに寄り添い、多様な学びの可能性を模索しながら一人一人に合う学習環境を一緒に考えていきます。(保崎)

成長を目の当たりにして

からは国語に加えて英語も学習することを挑戦し、今では週に2回の学習が自分のルーチンとなっているようです。このことはサポートセンターに通えるようになる前までは想像できないことでした。

ます。

(保護者 M・M)

ートセンターを活用して、学びと発見を増やしていきたいです。

(中2 N・K)

変化のち晴れ

嫌いな環境に合わせるのが嫌になった。何もない私はまるで腐ったみかんだった。変わりたいなっ

て思うたびに自分の世界に逃げた。良くない事だと思ってたけどそれが変わるきつかけになった。自分が好きな物をちゃんと大切に出来たからだ。環境が変わって大切

だって気持ちを大切にしてくれ人かいは変われないけど腐った人間は少し変わった。その事実を大切に今日も自分の世界は晴れている。

(中3 T・M)



(小5 K・S)

サポートセンターでの学習の進展や成果により自信が付き意欲も増しました。

その結果、わずか一年で通信の高校への進学を目指せるようになりました。これも先生方のサポートのおかげです。

息子は高校に進学し



(中2 K・Y)

僕にとってサポートセンターは、居心地のいい場所だと思う。

僕は一文字一文字、ていねいに清書した。

話をするのは、ハードルが低い。それを文にするサポートを先生がしてくれたのだ。

僕は文を書くことが苦手だ。サポートセンターの先生と話をしながら、作った時の様子をふり返って文にしていた。

お礼状

学校で『お菓子づくり教室』があった。講師の先生にお礼状を書くことになった。



学習支援・居場所づくり

平成24年4月、健康福祉局に生活保護・自立支援室が創設され、「子どもの学習支援・居場所づくり事業」が始まりました。生活困窮世帯の子どもたちへの学習支援を行うことで、高校進学を支援し、健全な学校生活を送り、卒業後も大学進学や就労すること、経済的に安定した生活を送り、「貧困の連鎖」を防止することを目的として計画された事業です。各教室に通う中学生が目標をもって学習に取り組み、希望する高校に進学できるように学習支援を行っています。

対象は川崎市在住の生活保護世帯等の中学生でしたが、令和元年6月から新た

公立高校	全日制	17人
	定時制	3人
	通信制	
	その他	1人
	小計	21人
私立高校	全日制	4人
	定時制	
	通信制	1人
	その他	
	小計	5人
その他(未定)		
合計		26人

に小学生を対象にした教室が開設され、さらに一人親家庭の中学生も対象になりました。今年度も、昨年度と同様に川崎区で川崎教室、幸区で幸教室と日吉教室の3教室を開設しています。各教室では、コーディネーター、学習支援専門員(教員OB)を中心に、学習サポーター(教員OBや市民、大学生等)が子どもたちの学習支援にあたっています。

令和6年度の中学3年生の進路状況は次のとおりです。(星野)

こどもサポート旭町

「こどもサポート旭町」には、子どもたちがつづけた「STEP&GO」という愛称があります。不登校やひきこもり等の子どもたちが安心・安全に過ごせる居場所であり、自信をもって巣立っていける場所であることを目指して、平成22年度に開所されました。令和5年度からは、子ども未来局の事業として運営しています。週4日(月・木・土・日)16時、旭町こども文化センター3階で、学習・スポーツ・ゲーム・調理等一人一人がやりたい事を決めて自分のペースで過ごしています。何もしないのも

(紺野)

こどもサポート南野川

「こどもサポート南野川」は、不登校や引きこもりの子どもたちの居場所として子どもたちが一歩踏み出す事ができるように応援してきました。自分で決める力は大切です。目標を持つて学習を頑張る子、畑の作業を楽しむ子、収穫した野菜で調理に挑戦する子、物作りで力を発揮する子、ゲームや卓球で人との関わりを学ぶ子。そのやり方は十人十色。自分が選択した活動を通して、ゆつくりと力をつけ、自信と心の安定を取り戻していくようです。緑豊かな自然も、来所する子どもたちに寄り添い励ましてくれます。(野口)

たのしいキッズセミナー

キッズセミナーは、夏休みに発展学習、体験学習、実験などを取り入れた公開講座です。4日間午前と午後、15講座が開催され、延べ250人余りの児童が参加しました。楽しい国語・レベルアップ算数、チャレンジ算数・楽しい理科・おもしろ科学、わくわく造形教室、キッズパソコンなど全ての講座が実施されました。子どもたちは、夢中になって、楽しく学ぶことができました。充実した講座となりました。参観の皆様も子どもたちの学びの姿を見て、笑顔があふれていました。その姿は私どもの指導活動となりました。

(秋場)

地域の寺子屋

平成26年、「子どもたちが夢や希望を持って前向きに生きて欲しい」という市長の熱い思いを受け、寺子屋事業がスタートしました。

①設置目的

- ・子どもたちに様々な学習機会を提供することにより、学力向上や豊かな人間性の形成を図ります。
- ・地域ぐるみで児童生徒の教育及び学習をサポートする仕組みを作ることに、地域の教育力の向上を図ります。
- ・シニア世代をはじめとする地域人材の知識及び経験を生かして、様々な世代で学ぶ生涯学習の拠点をつくります。

サイエンスキッズ

サイエンスキッズの活動には、出前科学教室、キッズセミナーへの協力、サイエンスキッズ講座の三つの柱があります。出前科学教室では、学年全体を対象とした活動も始まり、3校で6回延べ207人の参加があり、充実した活動になりました。キッズセミナーとサイエンスキッズ講座では、延べ363人の参加がありました。サイエンスキッズ講座は10の講座で、例年以上の申込みがあり、参加した子どもたちの楽しく熱心に活動する姿が見られました。今年度も、自然の事物・現象を考えつつ、子どもたちと楽しい活動に取り組みます。

(志村)

外国につながる寺子屋

令和5年度から「外国につながる子ども向け寺子屋事業」として、幸区において東小倉教室、幸町教室を開室しています。子どもの生活言語習得には目を見張るものがありますが、教科書を読むことができて意味がわからないなどの困り感をもっています。教室では地域の市民サポーターの協力を得ながら、子どものニーズに応じて日本語や教科学習を支援します。お楽しみ会やかきた大会などを開き、楽しく安心できる居場所となるよう努めます。(堤・保崎)

編集後記

教育活動総合サポートセンターは本年度で設立22年目となります。設立以来、自主事業や委託事業など、多くの事業を行ってきました。その間、社会の情勢は変化し、様々な課題も生まれています。それらの課題に対応するためにも、変えていくものと、変えてはいけなものをしっかりと見きわめ、地道に諸活動を進めていくことが必要です。

サポートセンターの原点である、設立のおもい「子たちに力を「子たちと夢を」の合い言葉を忘れることなく、今年度も確実な一歩を進めていきたいと思っています。(海老沢)